

橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会 第4期第1回正副グループ長会議録	
日 時	令和8年3月25日(水) 13時30分から16時00分
場 所	旧市民会館2階第2会議室
参 加 者	堀内 秀雄、森田 知世子、戸島 浩子、平田 敬二、松山 泰久
	地域振興室 前川、上原、今山
	記録：今山
<p>1. 開会 堀内委員長より挨拶。</p> <p>2. 議事 (1) 令和8年度主要事業について(資料1-1、1-2)</p> <p>【継続事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治と協働の職員研修は市民参画Gが企画担当で正副G長を中心に類似団体の事例を調査するなどして進める。 ・まなびの日ブース出展は引き続き向委員にリーダーを依頼し、前回の反省を活かして進める。令和8年度は11月8日に実施で、8月の出展希望に間に合うよう準備する。 ・第4期提言書作成は各グループにおいて第3期提言書を参考に第4期のまとめと第5期にやるべきことを検討する。昨年は各グループで取り組みの箇条書きから始めた。 <p>(資料2)</p> <p>【新規事業】</p> <p>①第2次協働の基本指針策定(資料4、5-1、5-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平田委員を中心に取り組む。 ・第3回検討会議後の指針案を素案、パブコメや市民活動団体との意見交換を反映した案を原案としては。 ・市民活動団体との意見交換となっているが、はぐくむ条例や協働の指針の趣旨を考えれば、協働に関心のない人も含め広く市民の声を聞く機会を設ける必要があるのではないか。 <p>→6月～7月ごろの市民活動団体との意見交換に変わり、市民の声を聞く機会を設け、パブコメ及び市民との意見交換会の内容を反映させた原案を8月のはぐくむ委員会に報告する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討会議に上下水道部も加えるべきでは。 ・検討会議の内規を作成し検討会議立ち上げの根拠にするとともに、座長・副座長も任命して、責任ある会議にする必要があるのでは。 	

②10周年記念誌作成（資料3-1、3-2）

- ・ 前回はぐくむ委員会で要望のあった記念誌の構成案と他自治体事例を事務局より提供。
- ・ 松山委員を中心に取り組む。
- ・ 写真や図、二次元コードを活用し、「はぐくむ条例のうた」を載せるなど見て面白い冊子にする。
- ・ 作成チームは5月のはぐくむ委員会で立ち上げる。

（2）各グループの取り組みについて

補足として以下を説明。

- ・ 情報共有グループは5月広報の原稿作成を実施済み
- ・ 市民参画グループはこどもパンフレットを使用した出張授業について、ゴールデンウィーク明け以降にお願いしたいと小学校から相談あり。
- ・ 地域運営組織について、隅田地区は設立準備会を立ち上げ、今後地域まちづくり計画の策定と部会について検討する。部会の立ち上げについては、「課題解決事業に沿った部会が良いのでは」との意見がでている。
→地域課題に対する専門的なアドバイスは隅田地区に限らず地域外からも募集し、地域の内外の力で変えることを目指した方が良い。

3. その他

①高島市への視察

- ・ 職員研修の講話資料にあった市内中高生を対象とした「まちづくりを实践できる学習プログラム」の開発や「市民協働のまちづくり推進懇話会」の設置など、今後予定している事業が実践されたのち、成果や課題を伺う機会を設ける。またはそれらの事業の見学会を申し入れることを検討する。

②はぐくむ委員会の体制について

- ・ 東副委員長の後任については5月の委員会において検討、任命する。

③地域づくり活動交付金について

- ・ 取り組み事業の中で年間大賞を表彰する市民表彰を実施してはどうか。

【考えられるメリット】

- ・ 発表の場＋市民投票の場を設けることで、取り組みの見える化と実施している団体等のモチベーション向上に繋がる。
- ・ 地域づくり活動交付金の対象団体が県や国の交付金等を申請するにあたり、プラスの要素になり得る。

4. 次回会議について

未定。令和8年度は多くの事業が予定されているので、委員会全体で協力して取り組むことを確認した。